

都市環境デザイン会議 北陸ブロック総会

日時：2017年6月10日（土）
会場：高志の国文学館研修室 101（富山県富山市）
参加者：上山寛、小見直樹、稲葉実、島津勝弘、大丸英博、柳原恭順、和田晃、上坂達朗、小間井孝吉、高田実、谷明彦、鏑隆弘、福塚正浩、水野一郎、埜正浩、下川勇、玉森慶三、寺村浩一、中澤俊（会員 19 名）

ブロック総会は、会員 19 名のご参加をいただき、議事については滞りなく承認されました。

議事要旨は、以下のとおりです。

<議事要旨>

- ・第 26 期活動報告・収支報告が承認されました。
- ・第 27 期活動計画・収支計画が承認されました。
→次期開催地は、2017.10.14（土）～15（日）に新潟、H30 春は福井。
→活動費は、正会員、準会員 [一般]、準会員 [学生]、特別会員の会費額と会員数による荷重配分方式により配分され、北陸ブロックは 25 万円。
- ・報告事項として、理事の埜正浩氏より、JUDI の新規事業である「JUDI 北前船プロジェクト」の第一回として、5 月 13 日に防府市中心市街地活性化協議会とビジョン検討会・意見交換会を行ったこと、また 7 月 15 日の第 27 期定例総会及び 9 月 29 日～10 月 1 日に岐阜にて開催される全国大会について報告されました。

- ・定例総会には、北陸ブロックから参加費の支援をすることが承認され、全国大会は、金沢での開催となりますので、より多くの会員にご参加いただきたいと思えます。
- ・JUDI プロジェクト「地酒文化とまちづくり～北陸 4 県の酒蔵を訪ねて～（その 2）」の活動内容が報告されました。
- ・事務局からは、浅井健治氏、寺村浩一氏の 2 名が入会されたことにより、北陸ブロック会員は、51 名（準会員 1 名、学生会員 2 名含む）となったことを報告しました。



左から、事務局 埜氏、ブロック幹事 鏑氏



ブロック総会の様子

都市環境デザイン会議 in 富山 2017

日時：2017年6月10日（土）
会場：高志の国文学館研修室 101（富山県富山市）
参加者：会員 22 名、一般 9 名 計 31 名

フォーラム「災害を“いなくす”都市のデザイン」は、JUDI 北陸メンバー 22 名に加え、一般参加者 9 名、計 31 名にご参加いただきました。

司会・進行は、大丸英博氏が務めました。



■ 基調講演(概要)

◆「松川雨水貯留施設整備事業」

井山 哲男氏（富山市上下水道局）

旧市街地約 277ha が合流式下水道で整備されている。

昭和 25 年の戦災復興都市計画事業の着手とともに昭和 27 年から下水道事業に着手して、現在は、松川に 4ヶ所の雨水吐口が設置。



一方、合流区域内の松川から南側のエリアで、平成 10 年から現在までに、延べ 222 戸の浸水被害が発生している。原因としては、昭和 27 年当時の整備水準 40mm/h の雨にまで対応できる施設として整備されたが、現在の基準にすると時間当たり 14mm/h 程度にしか対応できていないことが原因の一つとなっている。

このような背景のもと、一級河川松川の水質保全、中心市街地の浸水被害の解消・軽減の 2 つを目的として、松川南側の約 178ha で松川雨水貯留施設の計画が進められてきた。貯留管方式を採用し、かなりの整備効果が確認できている。しかし、100% 浸水がなくなるわけではないので、今後も浸水被害が残る地区は、既設の合流管の改築更新に合わせた増強やバイパス管の整備などを行い、浸水被害の解消に努めていきたい。



基調講演の様子

■ パネルディスカッション

●コーディネーター

谷 明彦氏 (金沢工業大学教授 JUDI 会員)

●パネリスト

小見 直樹氏 (新潟: エヌシーイー (株) JUDI 会員)

稲葉 実氏 (富山: (株)三四五建築研究所 JUDI 会員)

上坂 達朗氏 (石川: (株)東洋設計 JUDI 会員)

高田 実氏 (石川: (株)エコシステム JUDI 会員)



パネルディスカッションの様子

◆「新潟県における災害～中越大地震からの復興、山古志の事例～」

小見 直樹 氏

震災発生が 10 月 16 日。12 月 4 日から 4 カ月ほどで山古志復興プランを策定した。復興・復旧だけでなく、今回の災害をばねに、千載一遇のチャンスなのだとすることで、地域価値を高めることに取り組んだ。

普及期は、受援体制をしっかり整えておく必要がある。また、災害査定は時間が厳しく、国の災害や復旧に該当しないような支援体制、復旧から復興での庁内体制。住民とは語り合いの場をつくり、夢の持てる将来像を共有することが重要。

◆「災害を“いなす”都市のデザイン」

稲葉 実 氏

神通川が実によく氾濫した。歴史をたどると 100 回をかなり超えるような水害を経験している。この神通川を何とか成敗しなければならないということで、馳越（はせこし）などをしたそう。今残っているのは県庁、電気ビル、その後にできた中部高校。こう見ると地の利は大変大事。

もう一つ、家づくりはまちづくり、まちづくりは人づくり、人づくりは土づくりからなどと言っている。ものづくりも大事だが、土というものがどれだけ私たちの生体をつないでくれているかということが分かってきた。それとは別に、調和の取れた景観というものもある。

◆「金沢における自然災害とその対策」

上坂 達朗 氏

平成 20 年（2008 年）に、浅野川水害という大きな災害があった。浅野川水害は、富山県との県境辺りの医王山での集中豪雨、ゲリラ豪雨が原因。

金沢市は、こういった災害を踏まえて、総合治水対策を改めて練り直し、ハードとソフトの対策を進めている。ハードについては、河川なりの水路整備を進める一方で、市民レベルでできる貯留タンクや地下浸透枘を設置していくことを推奨している。

ソフト面では、消防組織と自主防災組織という大きな 2 本立て。自主防災計画は、実際にこれを作っている地域はほとんどない。そういった住民意識のレベルを上げていく、そのためのコミュニティ形成も重要な課題である。

◆「瓦と透水性舗装と瓦のリサイクル舗装について」

高田 実 氏

廃棄瓦のほとんどは、安定型処分場に行ってしまうが、私どもは破碎処理を行い、加工して砂利製品を作り、透水・保水性景観舗装材としてリサイクルしている。瓦の舗装については、透水率は非常に良く、非常に多孔質で、保水性が非常に高い舗装材を作ることができることが分かっている。

瓦は重いけど、その重さが家を守る重要な存在で、何度も使うことができ、伝統的でエコロジーな素材であり、欧州を見習い検討していくべきと考える。

<全体ディスカッションでの主な意見>

(小見氏) 山古志地域としても、1500年の歴史の中で震災の経験もあるので、ハード面での地震対策や建築物も建築基準法に基づいてしっかりと強度を保つようにされている。でも、どうしても避けられない部分というのがあって、そういったものに対しては受け止めるしかない。受け止めて、後はそれを1日も早く、むしろそれをばねにして、今まで以上により魅力のある地域をつかっていこうではないかというのが、「帰ろう山古志へ」を作った精神。これから受け止めた後も、どのように住民の意見を、気持ちを一つにして、より発展的な、創造的な復興を遂げていくというのは、どこの都市においても非常に重要な課題ではないか。

(稲葉氏) まちのすぐそばで大きく湾曲しているということに対する気付き。その後、どうするかといったときに、県庁や電気ビル、学校を持ってきて、何とかその湾曲、残されたところに新しい町をつくらうとする。その心意気はすごかったのだという気がする。その結果、富山駅があの位置になったことで、今はかつての中心市街地よりも富山駅周辺の方にはるかに若者が集まってくるようになった。

中国では、「水を制する者は国を制す」などと言われていたようだ。お百姓さんたち、その先の政治家たちとか侍たちが考えた、いかに安全に水を水田まで届けるか、そして米を1粒でも多く採るか、そういうエネルギーがずっと蓄積されてきていたということである。



左から、小見氏、稲葉氏、上坂氏、高田氏

(上坂氏) 浅野川水害のときは、内水が溢れて川に出て行って洪水になったというのではなくて、上流で降ったのがやってきた外水被害。この経験を踏まえて、今は扉の鍵を地域の方にも渡して、最悪、管理者の方が間に合わなかった場合は地元で閉められるように改善もされてきた。

地域で防災訓練などをしても、お年寄りの人は非常に疎い。でも、浅野川水害があったおかげで、水害に関して非常に敏感にはなっている。地域防災士も増えてきているので、防災訓練でそういうことを伝えていこうというふうになっている。

(高田氏) 特殊なものであるというところもあって、コストがどうしても高くなってしまおうという点の一つがある。瓦については、確かに大量に出てくるが、一般的な道路にはあまり使えない。どうしても削れてしまうというのがあって、そういった点で大量に使えないということと、それだけ大量に出てこないということもある。

透水性舗装は、非常に機能が強く、すごい舗装材だ。作っている側としても改めてそういうふうにするので、もっと普及すればよい。昨今では、非常に高強度のポーラスコンクリートといったものも出ている。車道などでも対応できるようなものとしても改善されて、ここ2~3年ぐらいには強度の点も改善されると思う。



(谷先生まとめ) 災害は起こることを完全に防ぐことはまず難しいし、これを全部、解明したり、予知したりして避難するというのは難しい。

コーディネーターの谷氏

そうすると、来ることを前提に都市を災害に強い、受けて流すという意味から、ただコンクリートや鉄で固めて対抗するのではなく、知恵を絞っていくということになる。

一つはレジリエンス。復元力、復元性。やられても山古志みたいに復興できるということ。江戸時代は、火事で焼けてもすぐ復旧できるという体制があり何回火事があっても江戸は廃れなかった。

もう一つはリダンダンシー。災害のときに1カ所に集中していて、それがやられると全ての機能が失われるようなものは避けようということ。コスト面では1カ所にまとめておく方がいいが、非常時を考え2カ所にする。北陸はそういう意味では非常にセールスポイントができています。

最後に、避難や防災訓練。日本のように予定調和のような訓練ではなく、抜き打ち訓練をする。こういうことをこれから考えていかなければいけない。



参加者全員の集合写真

■富山市中心市街地周辺散策

あいにくの天候でしたが、島津勝弘さんや富山市の方々に説明を受けながら、高志の国文学館～松川雨水貯留施設～ユウタウン総曲輪～総曲輪レガートスクエアを見学しました。



松川貯留施設の工事現場



大手モールに面するユウタウン総曲輪

■ 交流会

会 場：たべ処 ひよこ

参加者：会員 19 名、一般 2 名

恒例の交流会は、富山駅近くで、美味しいお酒と料理を楽しみながら大いに盛り上がりました。



稲葉さんの乾杯で、交流会スタートです



新メンバーの寺村さんと水野先生からの一人一言です

—編集後記—

今回は、1 日目は天候には恵まれませんでした。2 日目は素晴らしい天候のもと、すべてのプログラムを無事終了することができました。ご参加いただいた皆様、お疲れ様でした。また、富山メンバーの皆様、内容の濃いプログラムをご検討いただき、感謝いたします!!!

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹 事 ● 鏑 隆弘 (金沢美術工芸大学教授)

事務局 ● 埴 正浩・高永智恵 (株)日本海コンサルタント)

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

■福鶴酒造現地調査

日 時：6月11日(日) 10:00～12:00

場 所：福鶴酒造(株) (富山市八尾)

参加者：安宅恵、島津勝弘、柳原恭順、上坂達朗、島由治、谷明彦、鏑隆弘、新田川貴之、福塚正浩、水野一郎、玉森慶三 (会員 11 名)

2 日目は、地酒文化とまちづくり～北陸 4 県の酒蔵を訪ねて～の事例調査として、富山市八尾にある福鶴酒造(株)に伺いました。

代表取締役社長の福島淳氏より、酒造りのこだわりや地域文化・食文化との関連など、ご説明いただくとともに、酒蔵の内部をご案内いただきました。

80%精米で旨み成分の高いリーズナブルで B 級グルメに合う酒や、「和のシャンパン」というコンセプトで、酵母の特性を活かし微発泡の酒も造っている。若い社員の発想と昔ながらの製法での商品づくりが、微増につながっている。試飲も忘れることなく、こだわりの味をいただきました。



酒蔵の内部をご説明いただいている様子



福鶴酒造をバックに集合写真

●北陸ブロックの今後の活動予定

◇都市環境デザイン会議 第 27 期定例総会 in 大阪

日 時：2017 年 7 月 15 日 (土) 15 時 00 分～

会 場：関西大学梅田キャンパス

◇都市環境デザイン会議 全国大会 2017in 岐阜

日 時：2017 年 9 月 29 日 (金) ～10 月 1 日 (日)

会 場：岐阜大学サテライトキャンパス

◇都市環境デザイン会議in新潟 2017

日 時：2017 年 10 月 14 日 (土) ～15 日 (日)

会 場：新潟県

JUDI 北陸ブロックホームページ

<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ

<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>